

広島県府中市立府中学園
(府中小学校・府中中学校)

1 地区概要

- ・府中市は、面積は195.71 km²、人口4万人強。
- ・近年では少子高齢化による人口減少の進行が課題となっている。

2 小中一貫教育導入の経緯

- ・中学1年生で不登校生徒が急激に増える課題あり。
- ・県が毎年実施する「基礎・基本」定着状況調査で小学生は県平均を上回るのに対して中学生は県平均を下回るという課題あり。
- ・平成14年に市内中心部にあったJT府中工場が閉鎖されて街作りの面での新たな施設が求められたことや、既存の学校施設に老朽化の問題が生じていたことも重なり、跡地に小中一貫校型学校の建設を決定。平成16年度から全市で小中一貫教育を試行、平成20年度の府中学園校舎完成に合わせ小中一貫教育の完全実施。

2

3 小中一貫教育の実施形態

- ・「当たり前の義務教育」を提供する観点から全市で6・3制が取られている。
- ・府中市には中学校区単位で小中一貫教育を行う、立地環境が大きく異なる四つの学園がある。

立地環境	学園名(愛称)	中学校	小学校
一体型	府中学園	府中中	府中小
	府中明郷学園	府中明郷中	府中明郷小
連携型	上下学園	上下中	上下北小、上下南小
併用型	府南学園	第一中	国府小、栗生小・旭小・南小

- ・全市で小中相互乗り入れ授業を実施しており、全教員が異校種に少なくとも年1時間は行っている。時期は各教員の都合に応じて個別に調整している。

- ・府中学園の校舎の北東はす向かいには旧府中第二中学校の校舎があったが、現在、体育館等の「体育ゾーン」として利用しており、現校舎とは歩道橋で結ばれている。
- ・教室構造が学年によって変化しており、小学1・2年生は従来通りの総合型、小学3～6年では間仕切りのないオープンスペース型を採っている。中学では教科教室型(教科センター方式)としており、各クラス別の拠点や荷物置場となるホームベースが用意されている。
- ・学習環境を求めて生徒たちが主体的に動くことや中1に中3の姿を近くで見せることを目的として、中学校段階では教科センター方式が導入されている。

●府中学園の児童生徒・学級数 (H26)

	小学校	中学校	合計
児童・生徒数	626人	382人	1,008人
学級数	21学級(2学級)	14学級(2学級)	35学級(4学級)

※学級数の括弧書は特別支援学級数で内数

4 教育課程の編成と運営

- ・府中学園では、児童生徒本人や家庭状況等に関する記録を「小中連携シート」にまとめ小1から中3まで引継ぎ、小中間で情報共有をしっかりとすることによって、それぞれの子の成長を深く見守り、保護者を含めた無用なトラブルも未然に防いでいる。

5 小中一貫教育の成果

- ・府中学園では、中一で新たに不登校となった生徒が平成23年度以降いなくなったことから、「中一ギャップ」の解消に効果があった。
- ・全国学力・学習状況調査から算数・数学面での効果が見えている。
- ・各教科センターによる教科別職員室もあり、教員間で教科内容上の相談もしやすくなった。

6 小中一貫教育の課題

- ・府中学園は、小中一貫型校舎であり、中学校では教科教室制を取っていることから、環境になかなかなじめない教員が出てきている。
- ・オープンスペース教室での近隣教室の音や中学1～2年生のホームベースが構造上狭くて利用しにくいという課題がある。
- ・開校当初は異学年交流を促進するために行事を何でも一緒にやろうとしていたが、これによって小中学生らしさが失われるという課題も生じたため、あえて減らすような試みを進めつつある。
- ・教員の負担感に関する問題もある。教職員の取組みや研究を積み重ねることで子供たちが良い方向へと変わる様子を感じさせることで、負担感を軽減させようとしている。

(参考文献「初等中等教育の学校体系に関する研究報告書2 小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究 (平成27年8月)国立教育政策研究所」)